

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200040		
法人名	有限会社モリモト		
事業所名	グループホーム田尻の里	ユニット名	南
所在地	福岡市西区田尻1520番地		
自己評価作成日	平成30年8月20日	評価結果市町村受理日	平成30年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成30年9月4日	評価確定日	平成30年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋建てで、天井が高く、天窓からは光が差し込み、明るい施設です。地産地消を実践することで入居者さまに喜ばれる食事の提供をしています。理念の「好きに暮らして、明るく安心」をモットーに、入居者さまがご自分の好きなように暮らし、日々安心して過ごして頂けるよう支援しています。寝たきりになっても可能な方はトイレで排泄をできるよう支援しています。外出・外食できない時は、お寿司やピザなど入居者さまのお好きなものを取って食べてもらうようにしています。入居者さまの能力を見極めて「何ができるのか? どこまでできるのか?」スタッフ間で情報の共有をして、入居者さまの自立支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフの控室に貼り、常に理念を意識し実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	提携医院に施設の案内を貼り、施設のことを知ってもらうようにしている。保育園児の来訪や中学生の職場体験も受け入れて交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な働きかけは出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月間の近況報告やインシデント・アクシデント報告を行っている。また環境の変化なども併せて報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上不明な個所等があるときは担当部署へ連絡し、確認などを行っている。その折の担当者からの質問には適正に報告など行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを第1に考え、別の対応策をスタッフで考えて対応するようにしている。職員全員参加の勉強会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修会へ参加し、その後勉強会を開催し、全職員で意見交換などを行っている。日常的に防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加、その後施設勉強会を開催している。現在、後見人がついている利用者は北ユニットに2名。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者本人は契約時の参加はない。家族とは事前の話し合いの時など十分な時間を設け説明を行っている。本人には状況に応じ日々の暮らしの中で対応している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や日頃の訪問時に直接職員に伝えてもらい、その都度内容を吟味し、対応している		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者との話し合いは少ない。管理者とはユニット会議時や個別に意見を聞き、内容等により反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の評価がどのようにされているのか基準が明確ではない。個別に評価を行い昇給などで、働く意欲の向上に努めてもらいたい		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢等等での排除はない。働く職員に対し社会参加や権利の保障は十分に配慮している		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動は主に市の研修を利用、その後内部勉強会を実施している。また、日常業務でパワハラにならないような言葉遣いやスタッフのプライバシー侵害にならないように注意している		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修の機会を得られるように勤務調整を行っている。その後内容を社内研修より共有している。また業務の中でトレーニングを行っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などの参加で同業者との交流はあるが、ネットワークへの参加ができていない		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の考えや、伝えたいことなどコミュニケーションを取り、少しずつ聞き取り、情報の収集と状況の把握に努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大まかな困っていること、不安・要望などは聴くことができる。初めに、いかにして安心信頼して頂くかに力を入れ、訴えの傾聴を行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階から家族や本人から話を伺い、今の利用者には何が必要か見極めサービスにつなげている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の性格があるが、それぞれの希望や体調に合わせ、一緒に生活をしているという関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、日常生活での変化など家族へ連絡・相談を行い、共に支える考えで関係の構築を図っている。毎月便りを出し本人の近況報告をしている。家族によってはグループホームでの生活を理解できない方もいる為難しく感じる		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に外出や散歩に出たり、馴染みの場所へ出かける等、家族の協力を得ている。友人等が当施設への訪問もいつでももらえるよう玄関は開放している		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席は相性の良さを基本に考えて決めている。トラブルや訴えがあるときは出来るだけ早く変更するなど対応している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院後も本人の様子確認のため訪問している。また家族へも連絡があれば情報の提供などを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で個々の希望・意向を聞き取り、サービスの中で提供している。困難な場合はユニット会議の中で全員で検討している		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から担当ケアマネージャーに情報の提供を受けている。入所後もわからない部分については時間をかけて本人などから聞き取る等、把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調や食事・排泄や動きの状態など観察し、現状の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の日々のケア記録や利用者・家族の希望を聞き取り、現状に即した介護計画を作成している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録や申し送りノートによる個々の現状把握と情報の共有を行っている。日常生活に変化があるときは毎日の申し送りやユニット会議などにより計画の見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画書をもとにサービスは提供しているが、それだけでは日常生活は遅れないことが多い。計画外のサービスも日常的に行うなど柔軟なサービス提供を行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児の来訪で歌と踊りが年2回、中学生の職場体験が年1回ある。若い人たちとの交流は楽しんで来ている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の月2回の往診があり、他科受診が必要な時は紹介状により受診を行っている		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の定期訪問がある。休日や提携医院の時間外など体調に変化があるとき、その都度連絡し指示や指導を受けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は速やかに情報の提供を行い、その後本人の様子確認と病院関係者との関係づくりのため、訪問等を行っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化しつつある利用者については早い段階から現状の報告を行い、家族の希望、意向を聞き取る。当施設でできる事の説明を充分に行い、納得していただき、その上で訪問やかかりつけ医との連携を図り支援している		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じて緊急時対応のシミュレーションを行うようにしている。救命講習への参加もするようにしている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時、夜間帯と日勤帯に分けた訓練や避難場所までの移動など実施して身につけている。地域からの協力は離れているため難しいと思われる		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	セクハラやプライバシーの侵害にならない言葉かけを行うように努めているが、時には出来ないことも見受けられる		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるように声かけを行うときは配慮した言葉使いをしている。入居者の介護が重なるなどしたときには介護者の言う通りになることもある。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者のペースで過ごせるよう起床時間は本人の希望に沿う時間に対応している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わない衣類を着用していても本人の希望に沿う形で行っている。二カ月に1回訪問理美容を行っている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	エプロンの装着可能な方にはご自分で行うようにしている。食事の好みを聞くこともあり、メニューに反映している。調理に関しては能力的に無理があり、お盆ふきを数名にしてもらっている。また歩行可能な方下膳をもらっている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の能力により対応している。摂取量が少ない利用者にはメイバランス等の補助食やムース等の形態に変更している。水分については自己摂取の難しい人にも個別に対応している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人での口腔ケアに支障がある人にはうがいや介助を行っている。また起床時・毎食後口腔ケアが出来ているかのチェックしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の周期に合わせたトイレ誘導、声かけ、介助を行っている。排泄時間も個々の体調や習慣を活かし声かけ見守りを行っている		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の日数や原因を考慮し、牛乳などの乳製品を多く提供をしている。またごぼう茶などで自然排泄ができるように工夫している。あまり長く便秘が続く場合は緩下剤使用となっている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、拒否や体調不良時は時間・曜日を変更している。時には声かけを行う介護者の変更もある		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	湿度・温度や居室の明るさは個々に併せて調整して気持ちよく眠れるようにしている。その時の体調や希望に応じて午睡をしてもらっている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	段階により数人でチェックするようにしているが、チェック機能が働かず服薬ミスがみられている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で洗濯物や袋たたみ、お盆ふきなど手伝ってもらっている。気分転換の為施設外への散歩、かるたやゲーム、歌レクなどで利用者の皆さんで楽しめるように支援している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出をされる方もいますが、できない方には職員が施設の近くを散歩に行ったり、玄関先で日向ぼっこをしている		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの原因になる為現金は持たないようになっている。数名わずかな金額を持ってあるが使うことはない		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りは支援している。年賀状も可能な方は出すよう支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、窓も多いので明るさには支障ないと思われる。利用者によっては鏡が気になることもあるためカーテン等で隠している。壁に利用者と一緒に作った季節の貼り絵などを飾っている		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分で動ける方はテーブル席やテレビの前のソファ椅子へ腰かけ、動けない方は本人に確認の上移動介助を行っている。テーブル席は気の合った人と同席になるよう配慮している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の場合はほとんどの家族と本人が相談の上、使い慣れたもの等を持ち込んでいる。配置は身体状況を加味して本人・家族と相談して決めている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動などに支障がないようにフロアに物を置かないようにしている。トイレの場所がわかるような表示をしている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		